

「見せる防犯活動」が最強の防犯力だ！

～刑法犯の認知件数 121 万件台に減少～

2014年中の刑法犯認知件数は121万2163件（警察庁確定値）で、前年に比べ10万1977件（7.8%）減少しました。これは、警察・行政・民間ボランティア等が一体となり、年々活発化する「見守り活動」などを推し進めてきた結果が奏功したものと考えられます。

1 YCの基本的な心構え

防犯活動の第一歩は、「見せること」です。

配達や集金など、日常業務の中で地域に目を配っている防犯活動の様子を悪意のある者に「見せる」ことです。

「見せる」ことが抑止力につながることを意識して行動しましょう。

2 YCは地域の大きな「目」

YCスタッフの皆さんの地道な防犯活動の積み重ねが、地域の大きな「目」となります。それは、犯罪に対する大きな抑止力となるものです。

特に、最近では地元警察や自治体と「見守り活動に関する協定書」を締結していることから、地域住民や警察などから大きな期待が寄せられていることは明らかです。

今後も警察や自治体をはじめ、地元企業、学校、町内会、ボランティア団体などと連携の輪を広げていきましょう。

3 YCの対応

- ・新聞配達や集金時には、防犯ベスト、防犯腕章を着用し、地域の人に積極的にあいさつしましょう。
- ・警察から地域の犯罪発生状況入手し、小さな事件・事故でもミニコミ紙で発信して、住民の防犯意識の向上に役立てましょう。
- ・地域の防犯活動には積極的に参加し、YCが地域防犯に対する取り組みを強めていることをアピールしましょう。

4 有効な防犯対策

○進んで声をかける

犯罪を行おうとする者は、「近所付き合いが良く、連帯感のある住宅街」を嫌います。泥棒などは、「見知らぬ人に声をかけられた。ジロジロ見られ、声をかけられてしまった」という理由で、犯行を諦めることもあります。

配達や集金等では見知らぬ人にも必ず一声かけましょう。

○あいさつ運動の励行

町内に「あいさつ運動推進地区・防犯パトロール」などの、のぼり旗やステッカーを掲げて地域住民と意思統一し、連帯感を深め、「犯罪者が地域に入りにくい安心・安全な街づくり」を推進しましょう。

○街の環境美化の推進

落書き、ごみの散乱、捨て看板などで乱れた街並みは、犯罪の温床となりかねません。街の美化は、地域住民のコミュニケーションのバロメーターとも言えます。街の環境美化を推進しましょう。

★ YCの見守り活動は地域住民や行政から大きく期待されています。